

## 追跡評価報告書フォーム

番 号	25-追跡-007		報告年度	平成25年度			
研究課題名	果樹振興品種の選定試験						
研究機関	農業技術センター						
研究期間	平成14年度～18年度(5カ年)						
連携機関							
研究経費	区分	【研究費】		【人件費】		【合計】	
	実績	4,331千円		5,737千円		10,068千円	
	当初	5,450千円		5,101千円		10,551千円	
これまでの 評価結果	実施年度	ニーズ	アプローチ法	事業効果	総合点	新規性 革新性	知的財産権等 取得の優位性
	事前評価	—	—	—	—	—	—
	事後評価	H19	4.0	—	3.3	3.5	—
研究概要	<p>1 背 景</p> <p>【常緑果樹】 果物価格および消費量は低迷しており、県内生産者から、消費の拡大や熟期分散による労力分散で生産コストの低減が可能となる県独自品種や新品種を育成することが求められている。また、消費者ニーズも多様化しており、県独自品種および新品種に対する要望が強い。</p> <p>【落葉果樹】 県内の落葉果樹産地は、その地域において農業振興上、重要な意義を持っている。今後これらの産地がさらに発展するためには、労力分散、多様化する消費者ニーズに応える品種の多様性が必要となっている。また、生産者の高齢化より、省力的な品種も求められている。</p> <p>2 目 的 当農業技術センターで独自に育成した系統、(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所、府県試験研究機関および民間で育成・選抜された新品種・系統(カンキツ類、ブドウ、ナシ、モモおよびカキ)について、広島県での栽培における諸特性を明らかにする。</p> <p>3 開発する技術 当センターで育成した品種および、(独)農研機構果樹研究所等の育成品種の中で、多様化した消費者ニーズにあった品種、収穫期分散等による省力的栽培品種について、県内における栽培・品種特性を明らかにすることで、適応性を明らかにする。</p> <p>4 最 終 目 標</p> <p>【常緑果樹】 「産地活性化を狙った県独自性の高いカンキツ類の新品種育成」で一次選抜された系統の果実・栽培特性を明らかにし、経済品種となりうるかを評価する。また、(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所育成系統については、県内における適応性を明らかにする。</p> <p>【落葉果樹】 (独)農研機構果樹研究所育成系統および民間育成品種について、各樹種の適応性検定基準に従って評価し、広島県において労力分散および多様なニーズに応えられる品種を明らかにする。ブドウ・モモについては、県内産地で現地適応性検定も実施する。</p> <p>5 得られる価値</p> <p>【常緑果樹】 当センターで育成した、「広島果研7号」、「広島果研11号」を品種登録した。また、(独)農研機構果樹研究所等の育成品種では、「はれひめ」、「麗紅」、「たまみ」、「べにばえ」、「西南のひかり」、「津之輝」、「はるひ」他の県内における適応性を明らかにした。</p> <p>【落葉果樹】 ブドウでは「シャインマスカット」、「オリエンタルスター」、「クイーンニーナ」、「サン</p>						

	<p>ヴェルデ」, ナシでは「なつしずく」, モモでは「ひめこなつ」, 「つきあかり」, 「つきかがみ」, カキでは「早秋」, 「太月」, 「太天」の県内における適応性を明らかにした。</p> <p>6 成果移転計画 関係機関と連携し, 現地栽培試験, 新技術セミナー, 農業技術フェスタ, 研究会, 現地検討会, 果樹同志会大会等で普及をはかり, あわせて, 当センターのホームページ, 研究成果発表会, 学会, 論文, 新聞により研究成果を発表した。</p>
--	---

## 1 成果移転の目標達成度

当農業技術センターで育成した「広島果研7号」, 「広島果研11号」, 「安芸まりん」及び「安芸の輝き」については, 平成18年より実施利用許諾契約をJA広島果実連と締結して, 穂木・苗木の供給体制を整えた。一方, (独)農研機構果樹研究所の育成系統については, 育成者である(独)農研機構果樹研究所に対して, 品種登録希望を要請し, 品種登録を完了した。あわせて, 果樹重点対策においても検討品種・チャレンジ品種に位置づけられ, 産地への導入が開始されており, カンキツ「せとか」, ブドウ「シャインマスカット」は移転目標を達成している。

## 2 研究成果の事業効果

### (1) 直接アウトカム (直接的効果)

#### 【常緑果樹】

「広島果研11号」は, 大崎上島を中心に3ha程度, 栽培されており, 「マイルド清見(商品名)」として, 平成20~23年に市場販売され, 4年間で887万円の販売実績となった。「はれひめ」は, 15a栽培されており, 平成17~23年の7年間で, 8,105万円の販売実績となった。「せとか」は, 7ha栽培されており, 平成17~23年の7年間で46,670万円の販売実績となった。

#### 【落葉果樹】

ブドウでは「シャインマスカット」の栽培面積が平成23年に4haになり, 平成18~23年の6年間で, 5,740万円の販売実績となった。カキでは「早秋」が平成18~23年の間に, 栽培面積が2ha, 販売金額で1,699万円になっている。ナシでは「なつしずく」の栽培面積が平成23年に10aになり, 平成18~23年の6年間で49万円, モモでは「ひめこなつ」の栽培面積が平成23年に10a, 販売金額では18万円になっている。

### (2) 間接アウトカム (間接的効果)

本課題で選定し関係団体と連携して振興した各樹種・品種は, 平成23年度までに県内果樹産業の生産額を5億4,176万円増加させている。

### (3) インパクト (波及的効果)

本課題で選定した品種のうち, 特に, カンキツ「せとか」とブドウ「シャインマスカット」は, 平成22~23年の1年間で販売額がそれぞれ1,500万円並びに1,900万円増加している。この2品種は, 今後も生産拡大が見込めるため, 今後10年間で, 両品種合わせて少なくとも数億円の生産額の増加が見込める。

### (4) その他

## 3 知的財産権等の活用状況

「広島果研7号(H17. 3. 23品種登録)」(極早生ウンシュウミカン「今田早生」の珠心胚実生系統)

「広島果研11号(H17. 10. 24品種登録)」(「清見」×「サザンレッド」の交雑品種)

「あまつづみ(広島果研13号)(H21. 3. 6品種登録)」(「安芸タンゴール」×「サザンレッド」)

「安芸の輝き(H21. 3. 6品種登録)」(「不知火」珠心胚実生選抜系統)

「安芸まりん(広島果研12号)(H22. 3. 11品種登録)」(「清見」×「サザンレッド」)

**【実施許諾の状況】**

「広島果研 11 号」, 「安芸の輝き」及び「安芸まりん」の3品種について, 実施許諾を行っている。

## 個別評価（各センター記入欄）

<p>1 成果移転の目標達成度</p> <p><input type="checkbox"/> A：目標を上回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。</p> <p><input type="checkbox"/> C：移転は行っているが、目標を下回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：移転は進んでいない。</p>
<p>2 アウトカムの目標達成度</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：目標を上回っている。（見込を含む。）</p> <p><input type="checkbox"/> B：ほぼ目標どおり達成している。（見込を含む。）</p> <p><input type="checkbox"/> C：目標を下回っている。（見込を含む。）</p>
<p>3 知的財産権等の活用状況</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：実施許諾し、事業化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：実施許諾を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> C：知財化（出願等）を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：知財化（出願等）を行っていない。</p>
<p>備考：</p>

## 総合評価（評価委員会記入欄）

<p><input type="checkbox"/> S：成果移転、アウトカムいずれも、目標を上回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> B：成果移転、アウトカムいずれも、ほぼ目標どおりである。</p> <p><input type="checkbox"/> C：成果移転、アウトカムいずれも、目標をやや下回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> D：成果移転が進んでおらず、アウトカムはない。</p>
<p>（アウトカムが見込値であり、大きく変動する可能性があるとして想定される場合）</p> <p><input type="checkbox"/>：アウトカムを見極めるため、研究所において追跡評価を継続すること。</p>
<p>備考：</p>